

博士課程教育リーディングプログラム 令和元（2019）年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25年度		
機関名	九州大学	全体責任者（学長）	久保 千春
類型	オールラウンド型	プログラム責任者	安浦 寛人
整理番号	P02	プログラムコーディネーター	矢原 徹一
プログラム名称	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム		

＜プログラム進捗状況概要＞

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本事業の目的は、専門分野での世界でトップレベルの業績、持続可能性に関する広範な知識に加え、専門・学際科学の成果を統合し、課題解決への決断を下すための新たな学識を持ち、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力を備える人材を育成することである。

これからの時代を牽引するグローバルリーダーには、専門分野における世界でトップレベルの業績（専門性）、持続可能性に関する広範な知識（学際性）に加え、専門・学際科学の成果を統合し課題解決への決断を下すための新たな学識（統域性）を持つことが求められており、また、グローバルリーダーには、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力が必要とされている。

これら社会からの要請に応えるために、3つの学識（専門性・学際性・統域性）と4つの実践的能力（国際力・研究提案力・プレゼンテーション力・指導力）を修得できる5年一貫のカリキュラムを提供するとともに、オールラウンド型科学として「決断科学」を開拓し、この科学を軸としてオールラウンド型リーダーを養成する。

本学は、平成7年に「九州大学の改革の大綱案」を決定し、この方針に則り、平成12年にわが国で初めて「学府・研究院制度」を導入した。この制度は、大学院の教育研究組織である「研究科」を教育組織としての「学府」と教員の所属する研究組織である「研究院」とに分離し、従来の学問分野を大きく超えて次代の先端的・学際的教育研究組織の柔軟な構築を可能とするものである。本制度導入後、新たな学府としてシステム生命科学府（平成15年）、統合新領域学府（平成21年）等を新設し、さらに、多くの学府において改組等を行った。また創立百周年にあたり、平成23年に策定したこれからの百年を見据えた「百年メッセージ」において「骨太のリーダー養成」を標榜しており、人材育成の理念として、先見性と俯瞰力の獲得、挑戦する姿勢、創造的な連携の重視、しなやかな行動力を謳っている。

本プログラムは、これまでの九州大学の改革をさらに進め、既存の学府に共通する新たな教育プログラムであり、将来的な「決断科学専攻」の設置を視

野に入れた改革構想である。

2. プログラムの進捗状況

- (1) 令和元年度は、プログラム担当教員の推薦と一般公募により、春季と秋季に学生の募集を行い、4月から3名の学生（3年次3名）、7月から2名の学生（1年次2名）を受け入れた。
- (2) Future Earthプロジェクトの成果を公開するシンポジウムを決断科学プログラムの教員・学生が一体になった運営により、令和元年8月1日にThe 4th International Symposium on “Decision Science for Future Earth”を主催した。海外からUNESCOのProf. Anantha Duraiappah, 健康関連の国際ベンチャー企業の経営者でFuture Earth Health KANの一員でもあるProf. Peter Daszakを、国内からもFuture Earth Japan hubの春日先生やUNESCO MABの委員の松田先生を演者に迎え、これまでの決断科学プログラムでの課題解決に対する取り組みを紹介し、活発な議論を行った。なお、シンポジウムはインドネシアとフロリダを遠隔で繋ぐ試みも行った。
- (3) 令和元年5月19～25日に災害・健康モジュールの実習をフィンランドで行った（学生2名参加）、令和2年1月6日～15日に総括担当によるメキシコ実習（学生5名参加）。令和元年7月27日～8月3日に災害モジュールによるインドネシア実習（学生1名参加）、令和2年1月19日～26日に災害モジュールによるインドネシア実習（学生2名参加）、令和2年1月18～23日に健康モジュールによるインド実習（学生1名参加）、令和2年1月17日～26日に統治モジュールの実習をフランスで行った（学生3名参加）、令和2年2月18日～24日環境モジュールによるカンボジア実習（学生1名参加）及び、令和2年3月3～9日に人間モジュールの実習をフィンランドで行った（学生4名参加）。実習に参加した学生はFacebook等で成果報告を行い、レポートを作成した。
- (4) 合計23回の国内実習を行った。環境モジュールは屋久島実習、大牟田実習、熊本実習、災害モジュールは東北実習、健康モジュールは久山町実習、朝倉・熊本実習、統治モジュールは、沖縄でのソーシャルビジネスやまちづくりに関する聞き取り調査、対馬実習、八女実習、人間モジュールは伊都キャンパスにおいて心理・意思決定実習を行い、報告書・レポートをそれぞれ作成した。
- (5) 組織研修ワークショップを鹿児島県の屋久島で行った。
- (6) 学生の自主的教育・研究活動を募集し、8件の研究・教育課題に関し、学生が独自の取り組みを実施した。
- (7) 成果報告を兼ねたフィナーレシンポジウムや国内外部評価委員への報告を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。